

北部地域整備対策特別委員会行政視察（概要）

1 視察日

令和7年10月28日（火）～29日（水）

2 視察項目（視察都市）

- ・宮ヶ瀬湖周辺整備について（清川村）
- ・宮ヶ瀬ダム周辺振興の取り組みについて（愛川町）

3 参加委員

委員長：安孫子 浩子、副委員長：塚 理
委員：岩本 守、浅野 優子、北原 正、下野 巖
委員外議員：大嶺 さやか

4 調査概要

宮ヶ瀬湖周辺整備は、（公財）宮ヶ瀬ダム周辺振興財団を中心に相模原市、愛川町、清川村が連携し取り組んでいる。宮ヶ瀬ダムは道路網の整備により、首都近郊の広域圏からも車でアクセスしやすい立地であり、年間約600のイベントが開催され、前年度の利用者数は約142万人であった。また、ダムの環境保全と観光開発の両立を図るため、地域の自然を自主的に守るルールである宮ヶ瀬湖憲章を制定している。そのほか、さらなる観光客数及び観光消費額増加を目指し、オリジナルドラマによるPR活動や地域優待クーポンの発行などに取り組んでいる。

愛川町は、ダムを活用した新たな観光資源となるイベントの創出として、全国的に珍しい夜間の観光放流である「ナイト放流」を実施している。このイベントは、愛川町を広く周知するため、全国から来場者を募り、継続的に開催し、今年で7回目を迎える。



また、「愛川ブランド」として町の名産品を認定し、優良産品のさらなる育成、観光物産の振興、地域産業の活性化を目的に取り組みを進めている。

5 委員長所感

宮ヶ瀬湖周辺の環境保全と観光開発については、自然を自主的に守るための宮ヶ瀬湖憲章を策定し取り組まれており、本市においても環境保全の視点を持ったルールは必要だと感じた。また、3つの園地では、様々な事業が展開され、本市でも取り組めるメニューは多くあると感じた。

愛川町では、観光資源としてダムを活用するため、全国的に珍しい夜間の観光放流を実施している。全国から多くの方の応募があり、特にテレビ番組で紹介された際には大きな反響があったとのことである。また、愛川ブランド等のPRによる地元の宣伝が、地道な広報活動として町の認知度向上に成果を発揮しているため、本市においても広報活動の重要性を実感した。